人をつなげる伝統文化
WARAJIのクールジャパン！

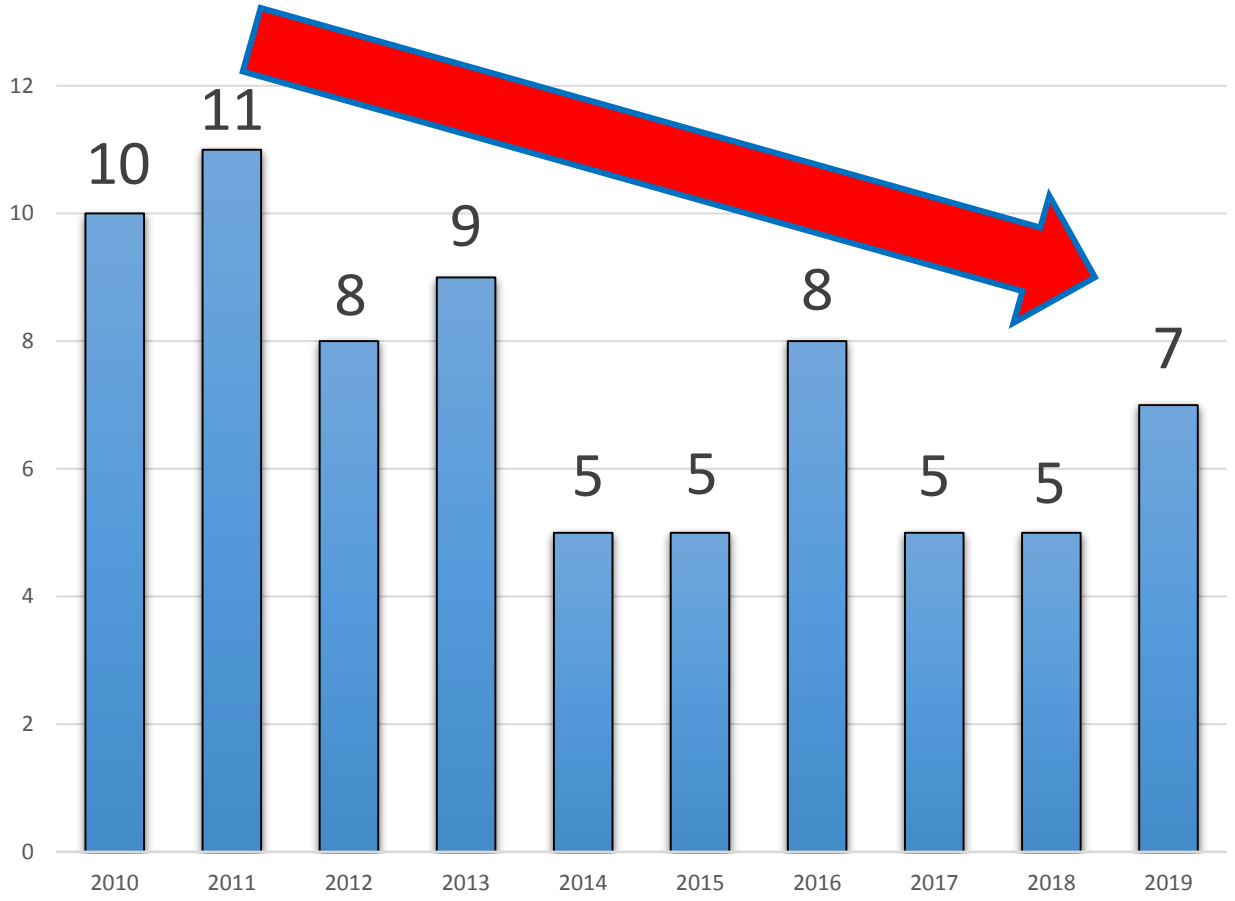
宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校
5年　岩田莉沙

五ヶ瀬町

人口:　　3537人
高齢化率:　37.6%

わらじづくり・わらじ遠足

学校の伝統文化の現状



講師の人数

担い手
不足

実は・・・

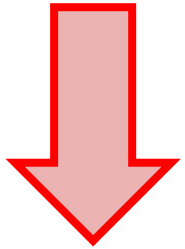
①ZARA

ストラップ付き編み込みエクリュサンダル

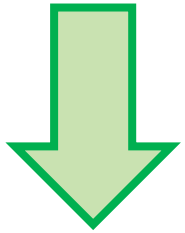
②MIZUNO

ウォーキングサンダル ウエーブリバイブⅢ

『現代の形』として商品化



新しい価値



世界中に発信

わらじは
日本のクール
なのではないか

訪日外国人旅行者の動向

観光・レジャー

滞在日数 増

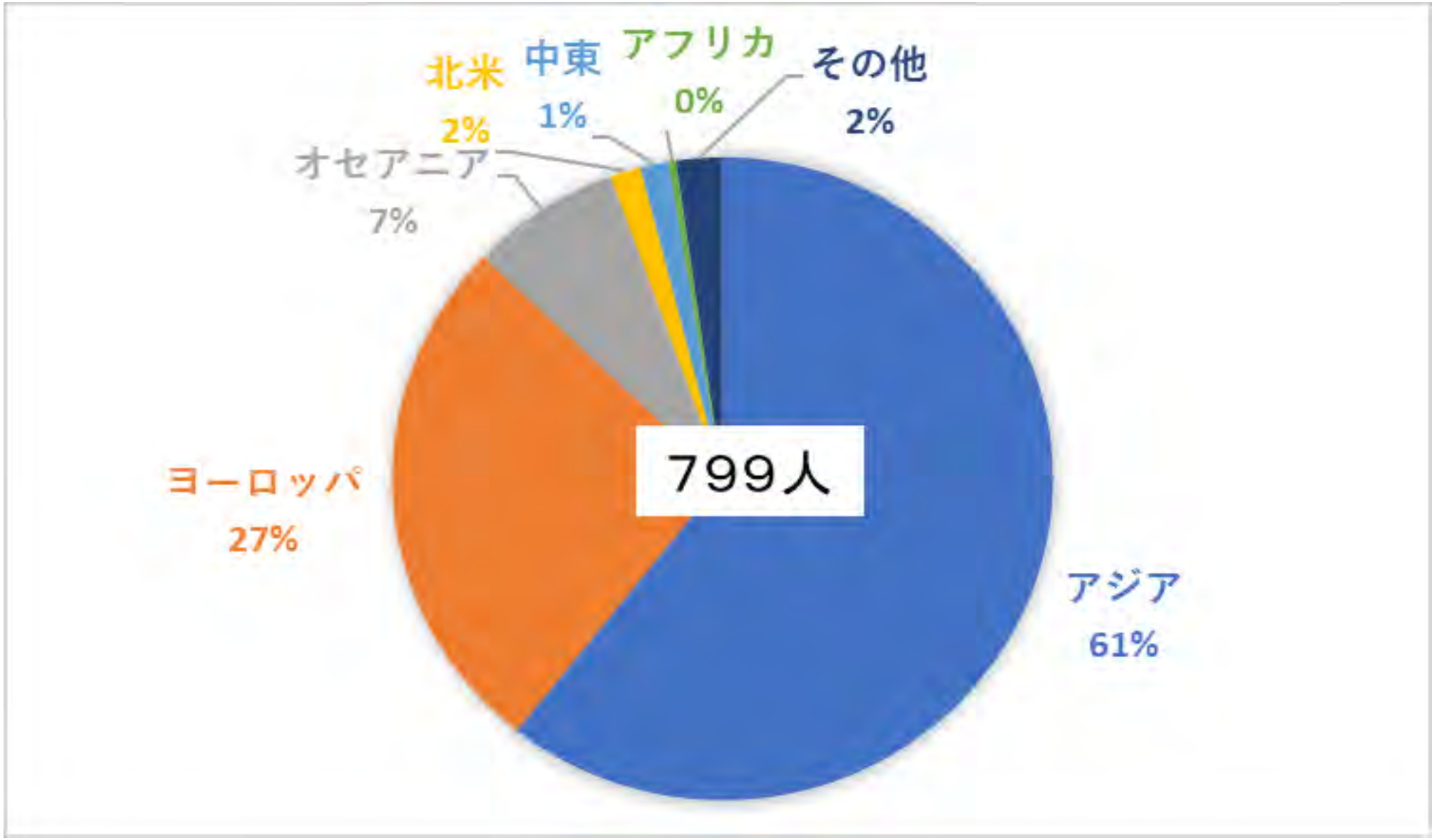
ファミリー・若者層　増

女性・若者 増

日本独自のコンテンツ

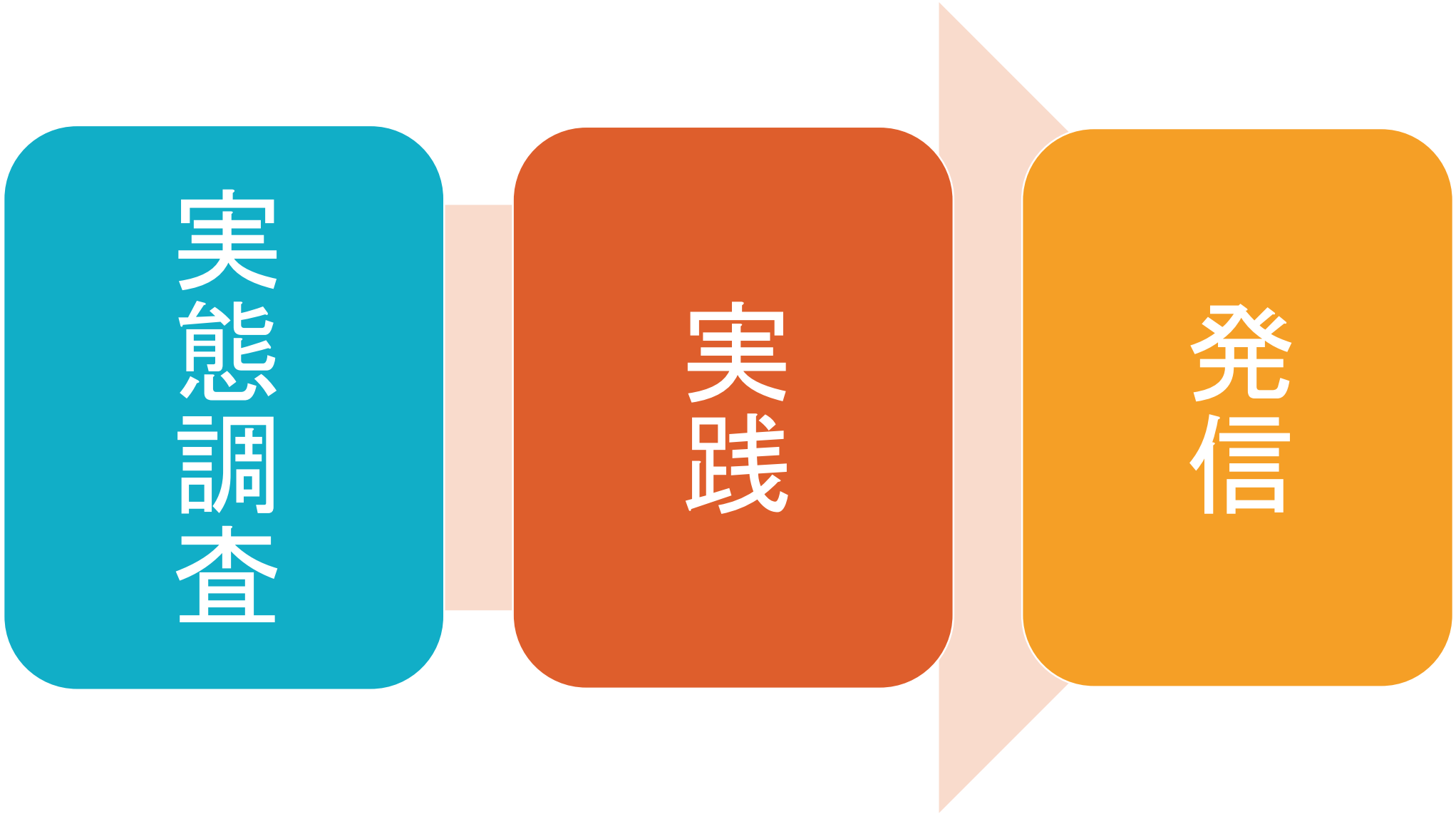
［三井住友銀行，2019］

五ヶ瀬の里キャンプ村＆ゲストハウス　宿泊者統計



わらじを用いた
外国人向け体験型観光

、

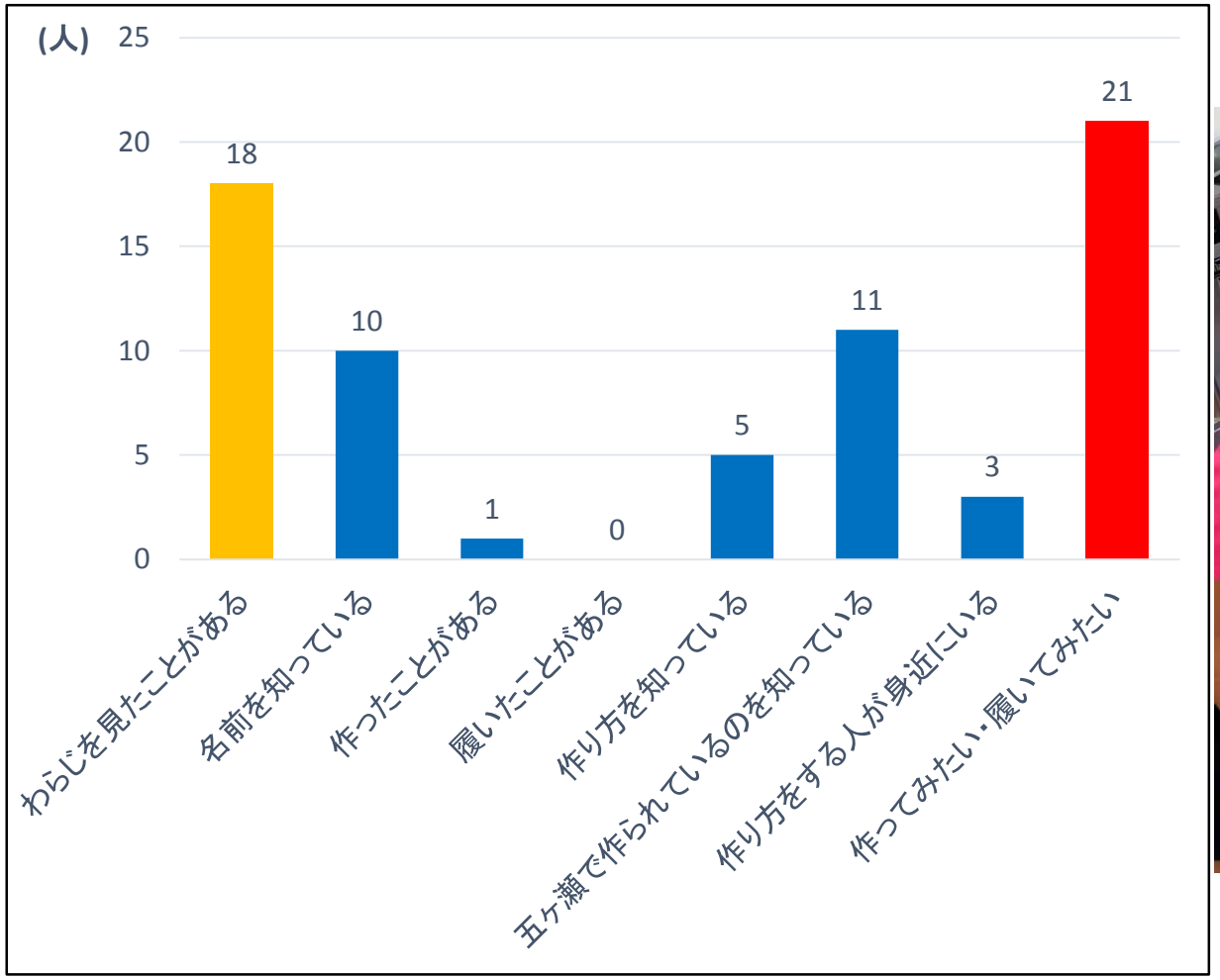

実態調査
実践
発信

実態調査

聞き取り調査　　荒踊りの館館長

- わらじづくりの伝承の途切れ
- 町民の伝統文化に対する意欲が高い
- 地域の絆を深める

聞き取り調査　　三か所小学校生徒21人



実施

ふれあい教室　　五ヶ瀬町内の小学生

他県の大学生との文化交流

関西学院大学10人
熊本大学7人

価値の発信

パンフレットの作成

わらじ

わらじとは、稲わらを使って作る伝統的な履物のことです。わらじは足の形にあわせて、つま先の二本の緒の部分を足の指に通して足に結んでいって履きます。
わらぞうりは、鼻緒があって足の指を鼻緒につっかけるだけの形式。
わらじは、足にぴったりフィットする形式で、歩くのに最適な履物とされていました。
わらじは旅の必需品ということで、古くから旅を表す言葉に使われています。
わらじは、お米の藁をかけ干しして、乾燥させた藁を、わらうち・わらすきをして作ります。そのわらうち・わらすきしたわらを丁寧に編んでいくとわらじができます。

歴史

わらじ

奈良時代に中国から伝わったわらの短靴が、平安時代に爪先で鼻緒を挟むよう改良されて誕生しました。稲で作り、足を楕円形の台に乗せ、緒を足指の股に挟み、緒を足首まで巻きつけで結びます。県内では、すべらないため、旅や野外仕事で履き、防寒として草鞋足袋を履きました。

ぞうり

草鞋を平安時代中期に簡単に改良したのが草履だといわれます。津軽や南部では、夏の漁、畑仕事、家の内外や、町へ買い物に行くとき履いたそうです。下北地方では、昭和10年頃まで小学校校内でも履いていたといいます。

五ヶ瀬町とわらじ

荒踊り

五ヶ瀬の荒踊りは、五ヶ瀬町に伝承されるもので、毎年９月に行われる行事。
この踊りは、坂本地区で約４００年以上も続いている。
現在は、坂本地区の約250戸の人々によって伝承されており、踊りの役は地域によって、明確な分担がある。昔ながらの定めが現在も厳守されている。
この荒踊の一行は、60余名の武者姿の者を中心とした役の者が中央に据えられた太鼓を取り囲んで踊る。伴奏に合わせて十余曲を踊る。全体で6時間程の長時間の踊りである。
規模や構成が大がかりであるばかりでなく、他に類例のない芸態で、地域的特色の顕著な風流の踊りである。
また、県の無形文化遺産に登録され、五ヶ瀬町外の人もこの荒踊りを見るため集まっている。この荒踊りでは、すべての人がわらじを履いて踊る。

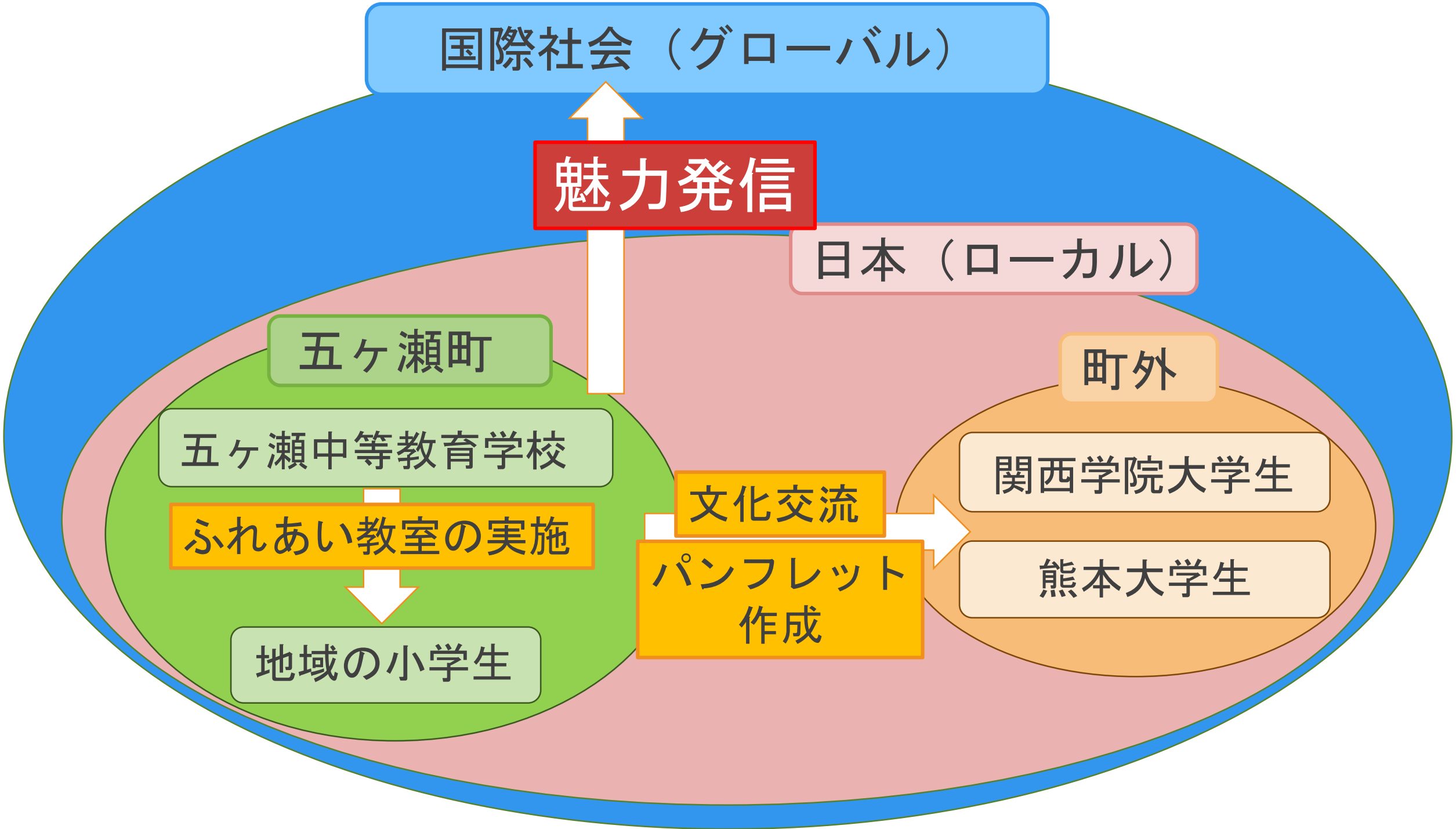
五ヶ瀬中等教育学校　わらじづくり・わらじ遠足

五ヶ瀬中等教育学校が開校してから、今まで続いている学校の伝統行事。
１年生が作ったもち米の稲を使って作っている。
わらじづくりの時には、五ヶ瀬中等教育学校の卒業生や、地域の方が講師として学校に来て、教わりながら丁寧に仕上げていく。この学校の生徒は誰でも作ることができるようになる。
わらじ遠足では、自分たちで作ったわらじを履いて町内を何キロも歩く。この行事を通して異学年との絆が深まっている。

伝統文化には魅力がある

国内　日本の誇り・地域の絆をつくるものとしての魅力

国外　観光資源としての魅力


国際社会（グローバル）
魅力発信
日本（ローカル）
五ヶ瀬町
五ヶ瀬中等教育学校
ふれあい教室の実施
地域の小学生
文化交流
パンフレット
作成
町外
関西学院大学生
熊本大学生

わらじ体験観光

農村民泊

×

わらじ
づくり

わらじ
WARAJI

「WARAJI」

これが五ヶ瀬町が誇る

クールジャパン！！！